



日本視覚障害者柔道連盟
JAPAN BLIND JUDO FEDERATION

中長期計画2026-2036

MEDIUM- TO LONG-TERM PLAN2026-2036

CONFIDENTIAL

Updated: 2026.01.15

01 本資料について

02 Vision, Mission

03 会長挨拶

04 強化・育成

05 普及

06 広報

07 マーケティング

08 財務

09 運営

10 スケジュール

11 用語定義

01 本資料について

本資料は、2026年から2036年までの10年間を見据え、日本視覚障害者柔道連盟が目指す方向性と、その実現に向けた考え方を整理した中長期計画である。

競技力向上のみならず、選手の発掘・育成、普及・広報、マーケティング、財務・運営までを一体的に捉え、視覚障害者柔道が継続的に発展していくための基盤づくりを目的としている。

本計画の策定にあたっては、日々の練習や大会、体験会など、現場で積み重ねられてきた取組や課題を出発点としている。選手一人ひとりの挑戦を支え、指導者や関係者が同じ方向を向いて歩んでいくために、今後10年間で取り組むべきことを段階的に整理した。

また、本計画では、勝利やメダルの獲得だけでなく、柔道を通じて社会に貢献できる「柔道家」としての人間形成も重要な柱として位置づけている。競技に真摯に向き合う姿勢、相手を尊重する心、困難に向き合い続ける力を育むことは、競技生活の先にある人生においても大きな価値を持つ。本連盟は、柔道を通じて培われるこれらの力を、社会に還元できる人材の育成を目指す。

さらに本資料は、全日本柔道連盟が掲げる長期育成指針における理念「JUDO for ALL」の実現を重要な柱としている。障害の有無に関わらず、誰もが柔道に親しみ、成長し、社会とつながることができる環境を、視覚障害者柔道の現場から広げていくことを目指す。

VISION

すべての人が障害の有無に関わらず、世界中の人とつながれる共生社会を柔道を通じて実現する

日本視覚障害者柔道に対する多くの方々のご理解を一層深めると共に、障害者スポーツが今以上に広がっていき、それに関わる全ての人々を取り巻く環境をより向上させ、誰もが住みやすい社会づくりに繋げていくこと。

MISSION

視覚障害者柔道を日本に広める

視覚障害者に対して、柔道の普及発展を促進する事業を行い、視覚障害者の社会参加と自立を図り、もって視覚障害者の人間形成に資すること。

日本視覚障害者柔道連盟は、「すべての人が障害の有無に関わらず、世界中の人とつながれる共生社会を、柔道を通じて実現する」というVISIONのもと、視覚障害者柔道の普及と発展に取り組んできました。これまで支えてくださった多くの関係者の皆様に、心より感謝申し上げます。

本資料は、2026年から2036年までの10年間を見据え、当連盟の使命と今後の進むべき道を示した中長期計画です。MISSIONに掲げる、柔道の普及を通じた社会参加と自立の促進、人間形成への貢献を軸に、競技力向上と組織基盤の強化を一体的に進めていくことを目指しています。

本計画では、競技者を単なる選手としてではなく、柔道を体現し、社会に貢献できる「柔道家」として育成することを重視しています。障害の有無に関わらず、誰もが柔道に親しみ、成長できる環境づくりを進めることで、柔道の価値をより広く社会に届けていきたいと考えています。

この計画は、現場とともに磨き続けていく指針です。本資料が、日本視覚障害者柔道の次の10年を共につくるための共通の土台となることを願っています。

NPO法人 日本視覚障害者柔道連盟
会長 初瀬勇輔

実績



- リオ大会 銀1、銅3
- 東京大会 銅2
- パリ大会 金2 銀1 銅1

課題



- 若手・女子層・地方での発掘の拡充が必要
- 「強化」と「育成」の連携不足
- パスウェイの未整備
- タレントプールの不足

目標



- ロス 金1 銀1 銅1 国際ランキング10位以内の選手育成
- ブリスベン 金1 銀1 銅1 国際ランキング10位以内の選手育成



パスウェイの構築

「強化」と「育成」の連携を行うことで計画的・継続的な強化プランの実施
選手発掘による一定数のアスリートの確保

実施方針

強化は、国際大会で安定的に成果を上げるための競技力向上を目的とする一方で、育成と連動した中長期的な取組として位置づける。単年度の結果にとらわれることなく、競技開始からトップレベルに至るまでの過程を見据え、計画的かつ継続的な強化体制の構築を目指す。

強化

- 選手発掘から育成、強化へとつながるパスウェイを明確にし、各段階に応じた支援を行うことで、将来を担う選手層の厚みを確保する。

育成と強化の連携

- 育成段階で培われる基礎的な競技力や姿勢を、強化段階で確実に引き上げる仕組みを整えることで、代表チーム全体の競技力向上と安定化を図る。
- 強化施策は代表選手教育プログラムと連動し、競技力の向上とあわせて、競技者としての自立や柔道家としての人間形成を重視する。

選手の発掘強化

- 柔道経験者と新規参加者の二つのターゲットに分け、関連するステークホルダーと連携することで、発掘の裾野拡大を図る。



パスウェイの構築育成から強化に至る一貫した取組を通じて、
競技内外で **活躍できる選手の育成** を目指す

強化

強化は、国際大会で安定的に結果を残すための競技力向上を目的とし、育成と連動した計画的・継続的な取組として位置づける。

選手個々の特性や成長段階に応じた強化体制を整備し、代表チーム全体の底上げと競技力の最大化を図る。



- ☑ 25年度から運用の強化体制のもと、目標達成のための強化プランを実施
- ☑ 地域大会開催のタイミングに合わすなど地方合宿を年2～3回開催
- ☑ 強化拠点を複数整備（練習受け入れ先の整備）
- ☑ 代表選手の「教育プログラム」の整備

育成と強化の連携

これまで、強化と育成が十分に連動しておらず、選手の成長過程が断続的になっていることが課題となっていた。育成段階から強化段階までを一つの流れとして捉え、選手の状況や将来像を共有しながら一貫した強化方針を構築する。これにより、計画性のある選手強化と安定的な代表チーム編成を目指す。



- ☑ 育成委員会と強化委員会を統合
- ☑ 育成～強化を一体的に見ることで、継続的な競技力向上を図る

選手の発掘強化

選手発掘は、既存の柔道経験者と新規参加者の二つのターゲットに分けて強化する。全日本柔道連盟や眼科医ネットワークなど、関連するステークホルダーと連携することで、これまで接点のなかった層へのアプローチを進め、発掘の裾野拡大を図る。

未経験層・新規発掘アプローチ（競技未経験者・若年層）



眼科医ネットワーク

視覚障害の診断直後や定期検診時に、眼科医から地元道場を紹介するシステムを構築。

診断 → 紹介 → 体験への直結



誰でも参加イベント

力自慢大会など、柔道経験を問わず参加できるイベントを開催し、身体能力の高い人材を発掘。

興味喚起 → 才能発見 → スカウト

経験者・属性別アプローチ（柔道経験者・中途視覚障害者）



全中大会での発掘

全国中学校柔道大会にブースを出展。有望な視覚障害生徒への発掘事業を展開。

◎ 若年有望層の早期確保



地方大会・視覚検査

全国で行われる地方大会での連盟紹介のブースを出展。窓口を設けることで潜在的な選手を発掘。

◎ 隠れた対象者の発見



関係ネットワークを活用した発掘

疾病等による中途視覚障害者や、高校・大学柔道部ネットワークを活用し即戦力を確保。

◎ 即戦力・パラ転向

実績



- 競技人口150人
- 体験会参加人数 24年770人（10回）

課題



- そもそも登録人数を正確に把握できていない
- 大会数少ないため、練習成果の披露の機会が少ない
- 地方で普及できる指導者が少ない
- 視覚障害者の柔道愛好家の人たちのモチベーション開発

目標



- 体験と教育を軸に競技人口拡大を目指す。
- 実践者だけでなく、実践者を支える指導者・サポーターを増やす
- 視覚障害者の生涯柔道の環境整備



選手登録のシステムの整備
普及プログラムの整備
体験会の工夫・充実

実施方針

普及においては、競技に触れる入口を広げると同時に、継続的に実践できる環境を整えることが重要である。競技人口の把握、対象を意識したプログラム設計、継続意欲を高める場づくりを一体的に進め、普及施策の実効性を高めていく。

選手登録システムの整備

- ▶ 全日本柔道連盟の登録制度との連携を前提とした選手登録システムを整備し、視覚障害者柔道の実施人口を可視化する。これにより、普及施策の成果や課題を把握し、改善につなげていく。

普及プログラムの整備

体験会の工夫・充実

- ▶ 柔道未経験者と柔道経験者の双方を対象に、段階的かつ目的に応じた内容へ再構築する。未経験者に対しては、競技への関心と継続参加につながる体験を重視する。経験者に対しては、KUNDE柔道を活用することで視覚障害者柔道への理解と参画を促進する。

愛好家層の継続 参加に向けた取組

- ▶ 地方大会に合わせた地方合宿の開催時には、親善試合（KUNDE柔道）や交流を目的とした親睦会、地域の観光等を組み合わせ、競技・交流・地域体験を一体的に設計することで、柔道が続ける動機づけと実践者の裾野拡大を図る。



地域や個人に依存しない持続可能な普及体制を構築し、
視覚障害者柔道の実践者と **関係人口の拡大** を目指す。

選手登録システムの整備

現在、視覚障害者柔道の実施人口を正確に把握できていないことが課題となっている。加えて、独自の登録システムを構築・運用するための予算的制約もあることから、全日本柔道連盟の登録制度との連携を前提とした選手登録システムの整備を進める。これにより、競技人口の可視化を図るとともに、普及施策や強化・育成施策の効果測定につなげていく。



- ☑ 全柔連との連携

普及プログラムの整備

普及にあたっては、体験の機会や指導内容が地域や団体ごとに統一されていないことが課題となっている。視覚障害スポーツ団体や関係機関と連携し、誰もが一定の質で柔道に触れられる普及プログラムを整備する。あわせて、指導者向けの講習やマニュアルの充実を図り、地方においても継続的な普及活動が行える体制を構築することで、競技人口の拡大と裾野の広がりを目指す。



- ☑ 視覚障害スポーツと連携した普及プログラム
- ☑ VISIONGRAMの活用
- ☑ ブラインド体験を実施している団体との連携
- ☑ 指導者講習の再構築
- ☑ 実践的な普及プログラムの構築

体験会の工夫・充実

現在の体験会は、企画や内容が属人的になりやすく、参加者の属性や経験に十分対応できていないことが課題となっている。本連盟では、体験会を柔道未経験者向けと柔道経験者向けの少なくとも二つのレベルに分け、対象を明確にしたプログラムを構築する。

あわせて、従来の「柔道とは何か」を中心とした一方向的な講義形式にとどまらず、体験の楽しさや継続意欲を高める内容へと再設計し、参加者が次のステップへ進みたいと感じられる体験会の実施を目指す。

KUNDE柔道は、柔道経験者を主な対象とし、視覚障害者柔道への理解促進と競技参加の入口として活用する普及施策である。柔道の基本構造や技術を共有している経験者にとって、ルールや考え方の違いを体感的に理解しやすく、競技への心理的ハードルを下げる役割を果たす。KUNDE柔道を通じて、健常者柔道と視覚障害者柔道の連続性や共通価値を伝え、指導者・選手双方が視覚障害者柔道に関わるきっかけを創出する。体験を起点に、体験会や大会参加、指導・支援への関与へとつながる導線を構築し、柔道経験者層からの継続的な関与と競技人口の拡大を目指す。



- 体験会フォーマットの策定
- KUNDE柔道の活用

愛好家層の継続参加に向けた取組

普及における課題として、視覚障害者柔道の競技人口拡大に加え、柔道を継続的に楽しむ愛好家層をいかに増やしていくかという点が挙げられる。現在、練習の成果を発揮できる場は大会に限られており、「全日本大会」「学生大会」「白帯大会」など、参加条件や競技レベルの差から、愛好家層が継続的に参加しにくい状況が生じている。

競技志向だけでなく、柔道を長く続けるための動機づけとなる場づくりも重要な普及施策として位置づける。具体的には、地方大会に合わせた地方合宿の開催時に、親善試合（KUNDE柔道）や交流を目的とした親睦会、地域の観光などを組み合わせた取組を検討する。

競技・交流・地域体験を一体的に設計することで、愛好家層の継続意欲を高め、視覚障害者柔道実践者の裾野拡大につなげていく。



- ☑ 地方大会と連携した共催大会の検討、企画、実施
- ☑ 地方合宿と連携した愛好家層向けプログラムの企画、実施

実績



- 各種フォロワー X 1,171 Instagram 1,010 Youtube 157 (2025年時点)

課題



- パラ大会期以外の露出が少ない
- 競技認知・選手認知が低い
- そもそものコンテンツが少ない、コンテンツ更新頻度が低い

目標



- パラリンピック前後のみならず、平時でも露出できるように継続的かつ優良なコンテンツ制作
- 選手・競技を知ってもらえるコンテンツを発信



定期的な情報発信

競技の「面白さ」を知ってもらえるコンテンツの制作
選手を知ってもらい「応援」してもらえるようなコンテンツの制作

実施方針

広報は、視覚障害者柔道の認知向上にとどまらず、競技の魅力や選手の姿を継続的に発信し、理解と共感を広げていくための重要な施策である。パラリンピック前後に偏りがちな情報発信を見直し、平時から安定的に露出を確保することで、応援の輪と競技への関与人口の拡大を目指す。

定期的な情報発信

現在、情報発信の頻度や内容が安定しておらず、競技や選手に関する情報が十分に届いていないことが課題となっている。本連盟では、投稿ルールやスケジュールを整理し、公式サイトおよびSNSを中心とした定期的な情報発信体制を構築する。

これにより、競技の動きや選手の活動を継続的に可視化し、認知向上と関係人口の拡大につなげていく。



- ☑ 現在のフォロワーの属性分析（SNS）
- ☑ 投稿に関するルールの作成（投稿スケジュール、内容、担当者）・運用

競技の「面白さ」を知ってもらうコンテンツの制作

視覚障害者柔道のルールや試合の特徴、駆け引きの面白さが十分に伝わっていないことが、競技理解の広がりを妨げている。映像や記事などを活用し、初めて触れる人にも分かりやすく競技の魅力を伝えるコンテンツを制作する。競技理解を深めることで、観戦意欲の向上や大会・体験会への参加促進を図る。



- ☑ コンテンツの制作体制の組成
- ☑ 企画の検討、予算措置、制作

選手を知り「応援」したくなるコンテンツの制作

選手個人の背景や挑戦、日々の取組が十分に発信されていないことも課題の一つである。選手一人ひとりのストーリーや人となりを伝えるコンテンツを制作し、「応援したい存在」としての認知を高めていく。選手と社会との接点を増やすことで、継続的な関心と支援につながる広報を目指す。



- ☑ コンテンツの制作体制の組成
- ☑ 企画の検討、予算措置、制作

実施方針

マーケティングは、協賛金の獲得を目的とするだけでなく、視覚障害者柔道の価値を社会と共有し、持続可能な競技環境を構築するための重要な機能である。

従来の露出型協賛に依存した関係から、競技・普及活動と連動した共創・事業型のパートナーシップへと転換を図ることで、関係人口の拡大・財務基盤を安定的に維持するためのスポンサーの拡大を狙う。

スポンサー契約の見直し、露出強化

現在のスポンサー契約は、露出の内容や価値が十分に整理されておらず、連盟側・スポンサー側双方にとって成果が見えにくい状況となっている。スポンサー区分や提供価値を整理し、広報・普及施策と連動した露出設計を行うことで、協賛効果の可視化と満足度向上を図る。

普及イベントと連携してスポンサー施策を一体化させて推進

体験会や普及イベントを単発で終わらせるのではなく、スポンサー施策と一体的に設計することで、より価値の高い取組へと発展させる。競技体験、教育要素、社会貢献といった文脈を組み合わせ、スポンサーが自社の理念や活動と結びつけて参画できる機会を創出する。

スポンサーを活用した外部リソース確保、スタッフの教育

スポンサーやパートナー企業が持つ知見やリソースを積極的に活用し、マーケティング活動の質を高めるとともに、連盟内部の人材育成につなげる。

外部連携を通じて、企画力・実行力を高め、継続的に価値を生み出せる体制の構築を目指す。

協賛金の確保やVIKの受入れ強化

金銭協賛に限らず、物品やサービス提供を含めた多様な協賛形態を積極的に取り入れる。競技運営や普及活動に直結するセールス商品を開発することで、連盟の課題解決とスポンサーの参画価値を両立させる。

実施方針

財務は、視覚障害者柔道の強化・普及・広報・マーケティングの各施策を継続的に実行していくための基盤である。助成金への依存度を段階的に下げ、安定的な自主財源を確立することで、持続可能な財務体制の構築を目指す。

収入源の多角化と自主財源比率の設定

現在、財源構成が助成金に偏っていることが、事業の継続性や柔軟性の面で課題となっている。協賛金、寄附、事業収入など収入源の多角化を進めるとともに、自主財源比率の目標を設定し、計画的な財務運営を行う。

寄附、協賛金等の拡充

個人・法人からの寄附や協賛金を安定的に確保するため、広報・マーケティング施策と連動した募集体制を整備する。視覚障害者柔道の価値や活動内容を分かりやすく伝えることで、継続的な支援につながる仕組みを構築する。

強化費や助成金の確実な執行による事業規模の維持・拡大

強化費や助成金については、目的に沿った適正な執行を徹底し、事業成果の可視化を行うことで、事業規模の維持・拡大につなげる。

限られた資金を効果的に活用し、競技力向上と普及活動の両立を図る。

資金運用の透明性確保

資金の運用については、使途や成果を明確にし、透明性の高い運用を行う。
財務情報の開示や報告体制を整備することで、支援者からの信頼を高め、長期的な財源確保につなげていく。

実施方針

本中長期計画に掲げた各施策を着実に実行していくため、事務局機能の強化を中心とした運営体制の整備を進める。ガバナンスの徹底と業務の可視化を図り、安定的かつ継続的な連盟運営を実現する。

ガバナンスの徹底

連盟運営における意思決定や事業執行の透明性を高めるため、規程やルールの整備・遵守を徹底する。役割分担や責任の所在を明確にし、健全で信頼性の高い組織運営を行う。

あわせて、ガバナンス意識の向上を図るため、選手や強化に関わるスタッフに限らず、連盟スタッフを対象とした定期的な講習を実施する。講習内容は、コンプライアンス、アンチドーピング、情報発信に関する基礎理解と実践を中心とし、組織全体として適切な判断と行動ができる体制の構築を目指す。

事務局機能の強化

事業の拡大に伴い、事務局業務の属人化や負荷の増大が課題となっている。業務マニュアルや資料の整備、情報の一元管理を進め、事務局機能の強化を図る。

これにより、業務効率の向上と引き継ぎの円滑化を実現する。

人材の採用・育成と組織活性化

安定的な運営を支えるため、事務局人材の採用・育成を進めるとともに、専門性を持つ人材との連携を検討する。内部人材と外部人材の知見を組み合わせることで、組織全体の活性化と運営力の向上を目指す。

外部団体との連携強化

全日本柔道連盟をはじめとする関係団体や外部組織と連携し、人材や知見を共有することで、連盟運営の質を高める。
外部連携を通じて、柔道界全体の発展にも寄与していく。

ウェブサイトの強化

連盟ウェブサイトを情報発信と業務の基盤として位置づけ、内容の充実と更新体制の整備を進める。競技情報や事業内容を分かりやすく発信することで、関係者および一般への情報提供の質を向上させる。

計画の進捗管理と見直し

本中長期計画については、年1回、事業の進捗状況を確認し、必要に応じて見直しを行う。環境や課題の変化に柔軟に対応しながら、実効性の高い計画として運用していく。

10 スケジュール

| 施策項目 | 26 | 27 | 28 LA28 | 29 | 30 | 31 | 32 AU32 | 33 | 34 | 35 | 36 |
|--------------------------|---------------|----|-----------------------|----|----|----|------------|----|----|----|----|
| 強化 委員会統合（育成・強化） | 体制整備 | | | | | | | | | | |
| 強化 強化拠点整備 / マニュアル | 環境・指導基盤構築 | | | | | | | | | | |
| 強化 合宿・コーチ育成・発掘PG | 継続的な強化・育成サイクル | | | | | | | | | | |
| 普及 選手登録システムの整備 | DB構築・連携 | | | | | | | | | | |
| 普及 普及PG・体験会の充実 | 企画・検討 | | 地域の選定・段階的に展開～全国へ展開・定着 | | | | | | | | |
| 広報 情報発信・コンテンツ拡充 | 認知・ファン獲得 | | | | | | | | | | |
| マ-ケ スポンサー契約見直し | 価値再定義・露出強化 | | | | | | | | | | |
| マ-ケ 外部リソース・VIK強化 | 共創型パートナーシップ | | | | | | | | | | |
| 財務 収入源多角化・自主財源 | 基盤強化 | | | | | | | | | | |
| 財務 透明性確保・事業規模拡大 | 信頼性向上・自走化 | | | | | | | | | | |
| 運営 ガバナンス・事務局強化 | 組織基盤強化 | | | | | | | | | | |